

# 子どもたちのインターネット利用について考える研究会 (子どもネット研)

## 保護者のみなさまへ

オンラインコミュニケーション能力を支えるのは「能力(スキル)」「知識」「倫理」  
利用開始時は、お子さまの能力の発達段階と相手別に「求められる力」を確認しましょう

新型コロナウイルスの影響により、子どもたちのインターネット利用時間が大幅に増加したり、文部科学省から、オンライン教育推進の支援施策が発表されたり、教育のオンライン化が一層進んでいます。

家庭でのオンライン教育受講も想定される中、各種準備や管理について、保護者に寄せられる期待と負担は今まで以上のものとなっています。しかし、保護者向けの情報提供やサポートは十分な状況とは言えず、緊急事態宣言時には、「利用させる上でどんな点に気をつけたいか」、「子どもがトラブルにあわないか」など不安の声が相次ぎました。子どもネット研では、このような状況を受け、これまでの研究結果を改めて提言することで悩みを抱える保護者の助けになるのではないかと考え、「オンラインコミュニケーションの段階的利用モデル」と、「乳幼児とスマホ 保護者のためのセルフチェック」の2つの研究結果を改めてお示しいたします。

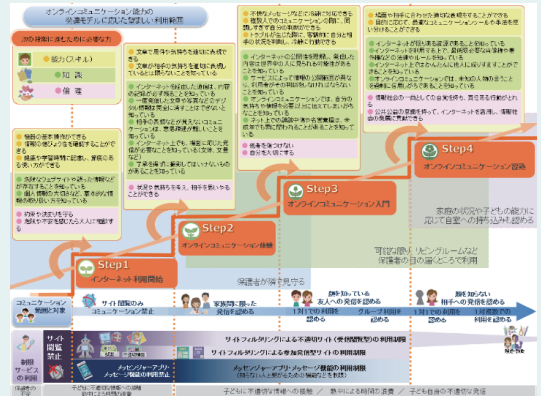
## オンラインコミュニケーション利用の段階的利用モデル -利用は発達段階に応じて段階的に

「段階的利用モデル」では、子どもたちがインターネット利用及びオンラインコミュニケーションを始める際の望ましい手順や身につけるべき能力を取りまとめています。

「段階的利用モデル」の大きな特徴の一つは、「子どもの発達」が段階になっている点です。

同じ年齢の子どもでも、「能力(スキル)」「知識」「倫理」は人それぞれです。そのため、本モデルでは保護者が「自分の子どもがどの段階なのか」を各段階の「必要な力」で挙げられている項目について、それができかどうかを判定することで、子どもの発達段階にあわせた理想的な利用の仕方や次の段階に進むための必要な指導が分かるようになっています。

[https://www.child-safenet.jp/material/guide06\\_model/](https://www.child-safenet.jp/material/guide06_model/)



## 乳幼児とスマホ 保護者のためのセルフチェック -スマートフォンで手軽に自己診断できるウェブサイト

2017年3月に公開した「未就学児の情報機器利用 保護者向けセルフチェックリスト(3歳から6歳)」を元に、スマホ育児の適切さをスマートフォンで手軽に自己診断できるウェブサイトを公開しました。

「機器利用の時間や場面」「情報の内容と保護者の関わり方」「機器の与え方」「保護者自身の知識や使い方」の4領域に関する計16問の質問に答えることで、現時点での各家庭の取り組みの適切さがかんたんに自己診断できます。研修会などでもご活用ください。

<https://www.child-safenet.jp/selfcheck/>



インターネット利用に必要な力は、保護者が子どもに寄り添いながら育てていくことが不可欠です。  
子どもネット研は、子どもを護り育てる保護者を引き続き支援して参ります。

### ▼ 子どもたちのインターネット利用について考える研究会 (子どもネット研) とは?

子どもたちのインターネット利用について考える研究会(座長:お茶の水女子大学 教授 坂元 章)は、子どもたちのインターネット利用をより豊かで安全なものにすることを目的として2008年に設立された研究組織です。

さまざまな課題について調査研究を行い、保護者・行政・関連事業者に向け、整理された情報を提供しています。

事務局:ヤフー株式会社、ネットスター株式会社、アルプス システム インテグレーション株式会社  
運営協力:ポールトゥウィン株式会社